2008年6月1日発行（毎月1回1日発行）第19巻6号通巻219号　1991年1月8日第三種郵便物認可

たたかう労働運動の新たな潮流を！

月刊

交流センター

2008
6

□戦争―失業、貧困、民営化にたち向かう労働者の国際的団結を！
サミット粉砕6・29全国労働者総決起集会の呼びかけ
国鉄千葉動力車労働組合

□女性部第15回大会定期大会開催される

□5・18県民大会4千名怒りの結集

連載　やってられないぜ！　メンタル症状増加

全国労働組合交流センター

月刊 交流センター 2008年6月号 No.219

目次

ライフサイクル攻撃に対し動労千葉はスト態勢を構築し緒戦の勝利を勝ちとった（5・8決起集会）

◉労働者の目　職場闘争強化し、6・29サミット粉砕集会へ …… 1
◉戦争―失業、貧困、民営化にたち向う労働者の国際的団結を！
サミット粉砕6・29全国労働者総決起集会の呼びかけ …… 2
◉緒戦の大きな勝利！　ライフサイクル強行弾劾！
何年かかろうと粉砕するまで闘う …… 3
◉不屈に闘う争議労組へご支援を！ …… 5
◉交流センター女性部第15回定期大会開催される …… 6
◉イラク労働者からのアメリカ労働者へのメッセージ …… 8
◉5・18「復帰36年　5・15平和と暮らしを守る
県民大会」、4千名怒りの結集
動労千葉といっしょに闘う仲間が堂々決起 …… 10
◉闘う合同・一般労組　第3回
不当な配転を許さない …… 12
◉やってられないぜ！　メンタル症状増加 …… 14
◉ひめじょおん――女性部から
関西合同労組を再建するぞ！ …… 16
◉動労千葉労働学校で学ぼう！ …… 17
◉労働ニュース …… 18
●国家財政、「心の病」
◉国労5・27臨大闘争弾圧刑事裁判 …… 20
◉東京中郵の闘い―「だんけつ32号」 …… 22
◉読者のページに投稿を …… 24
●マンガ

労働者の目

職場闘争強化し、6・29サミット粉砕集会へ

井上　長治
全国労働組合交流センター
常任運営委員

1～4月の勝利をひきついで、5月の闘いはすばらしい地平をきりひらいた。なによりも5・11の入管集会だ。あの沸き上がるような感動を参加した誰もが感じたはずだ。労働者が自分たちの闘いとして、在日・滞日とともに闘うことを確認しあえた画歴史的な集会だった。

そして、解放共闘主催の5・23狭山集会だ。激しい資本との攻防の上にこそ、部落解放闘争・狭山闘争の爆発があるとして、新たな部落解放運動の推進を宣言した。

これらの闘いは、労組交流センターにとっても、片隅にあった血債主義・糾弾主義を打ち砕く画期的なたたかいとしてあった。この勝利を切りひらいたのは、動労千葉の労働運動だ。国鉄分割・民営化という最大の新自由主義攻撃と2波のストライキで戦い抜き、11月労働者集会を牽引し、3労組・3国共闘を推進してきた動労千葉の階級的労働運動こそがこの情勢をたぐり寄せたのだ。

血債主義・糾弾主義との決別とはイデオロギーの問題ではない。

5・23狭山集会（文京区民センター）

日本労働者階級の団結の回復、全世界の労働者階級との団結の問題だ。われわれに求められているのは、権力・資本に対する激しい怒りに依拠した職場闘争だ。ここに団結の基礎がある。

4大産別を軸に、青年労働者を先頭にして激しい攻防が闘われている。動労千葉は、5月ライフサイクル攻撃に対して全面スト態勢を対置し、緒戦の勝利を勝ち取った。全逓でも、5月「東京中郵廃局」攻撃に対して、超勤拒否を貫き闘い続け、団結を拡大している。そして5・27裁判闘争の画期的な前進が実現した。

ＩＬＷＵがメーデーストに起ち上がり、これにイラク港湾労働者がストライキで連帯するというすばらしい闘いが始まった。

戦争と民営化、貧困と飢餓を強制する帝国主義者どもの「洞爺湖サミット」を、4大産別を軸にした職場闘争の強化で迎え撃とう。これこそ世界労働者との団結だ。

「6・29サミット粉砕！　労働者集会」の勝利へ、交流センター全会員は1カ月決戦に起とう！

戦争―失業、貧困、民営化にたち向う労働者の国際的団結を！

サミット粉砕６・29 全国労働者総決起集会の呼びかけ

国鉄千葉動力車労働組合

いま世界の帝国主義は、最末期ともいうべきどんづまりの危機に突入しています。その危機の中ですべての労働者人民に対して世界戦争と新自由主義―民営化、失業、貧困、飢餓の攻撃がおそいかかっています。

その全世界共通の攻撃に対して労働者・人民の反乱が燎原を焼きつくす勢いで始まっています。まさに「世界は革命情勢だ」というべき時代に入りました。

５月１日、「イラク戦争当事国」アメリカのＩＬＷＵ（国際港湾倉庫労働組合）とイラクＧＵＰＷＩ（イラク港湾一般労働組合）がともに連帯表明を出し、港を封鎖し、米からの軍需物資輸送を阻止する一方、イラクからの石油搬出を阻止するという画歴史的な闘いが実現しました。米西海岸の29の全港湾とイラク最大の港ウム・カスルなどがストライキで閉鎖されたのです。１８８６年５・１メーデーにシカゴを中心に35万人がゼネストに決起した以来の闘いです。この闘いで史上初めて８時間労働制を勝ちとりました。私たち３組合が呼びかける11月集会に参加しているＩＬＷＵローカル10などを先頭にして闘いとられたものです。

韓国民主労総も６～７月にゼネストに決起しようとしています。インドの首都・ニューデリーで４・24～25ゼネストが実現しました。イギリスでは公共部門40万人がストに入りました。フランスでは教育労働者の全国スト・高校生の決起、そしてマルセイユ港もストで閉鎖されました。ドイツでは郵便労働者、ベルリン交通局の労働者、保育園、学校、自治体の労働者もストライキにたちあがっています。スウェーデンでは、医療・福祉労働者10万人がストにたちあがっています。同時に中南米、アジア、アフリカ、中東などで食糧暴動が爆発しています。

この世界の労働者の闘いに連帯して私たちは、春闘ストライキに決起しました。そして青年を中心として職場から資本と連合指導部と全面対決する闘いが巻き起こっています。全国17カ所の３・16イラク反戦・全世界一斉デモがうちぬかれ、東京における６人逮捕に怒りが爆発し、職場と地域で団結が決定的に拡大しています。いまや日本の青年労働者・学生を先頭とした闘う労働者の希望は「団結の拡大」です。

このような世界中の労働者の総反乱の中でサミット＝首脳会談（アメリカ、日本などの８カ国）が北海道洞爺湖で７月７日～９日開催されようとしています。まさにこのサミットは総反乱を開始している世界の労働者人民の怒りの集中点です。

首脳会談で何がテーマになろうとしているか。それはあまりにも明らかです。帝国主義の末期的危機のなかで、その犠牲をいかに労働者人民に転嫁するか、争闘戦―世界戦争、新自由主義、そして労働組合破壊のための強盗会議そのものです。

イラク・イラン・アフガニスタンへの侵略戦争、世界戦争推進会議などどうして許せるでしょうか。同時に北朝鮮、中国の体制的危機の中で、米日による東アジアへの新たな侵略戦争策動を強めようとしています。もうひとつは、泥沼的な新自由主義のエスカレーションであり、労働者への競争と分断のもちこみ、失業、貧困、飢餓をもたらそうとするものです。断じて許すことはできません。

サミット粉砕の闘いに職場から

総反乱を組織しよう。世界中で闘いが爆発しているように全職場で資本との絶対非和解の闘いに決起しよう。職場権力を握り、ストライキにたちあがろう。労働者階級の階級的団結、国際的団結を全世界に示そう。団結の拡大こそが勝利です。その中心に国鉄・郵政・教労・自治体の4大産別の労働者がたつことです。第二次国鉄決戦に総決起し、JR体制を打倒しよう。1047名解雇撤回、反合・運転保安闘争にたちあがろう。組織拡大をかちとろう。郵政民営化絶対反対、物ダメ闘争にたちあがろう。「日の丸・君が代」反対―不起立闘争にたちあがろう。根津・河原井解雇阻止、米山解雇撤回。自治体「丸ごと」民営化反対、職場から人事評価制度拒否の闘いをまきおこそう。

この職場からの闘いを6・29全国労働者総決起集会に結集させよう。首都をゆるがす大デモをぶち抜こう。闘う学生は、その最先頭で全国学生ゼネストにたちあがろう。闘うすべての労働組合、労働者・人民の皆さんの賛同と参加を心よりお願いいたします。

2008年5月

●集会名称
「サミット粉砕6・29全国労働者総決起集会」

●とき
6月29日（日）13時～

●ところ
東京・代々木公園（B地区野外ステージ）

緒戦の大きな勝利！

ライフサイクル強行弾劾！　何年かかろうと粉砕するまで闘う

動労千葉

●配転強行を弾劾する！

昨日、千葉支社は、ライフサイクル制度に基づいて、駅への運転士の不当配転の事前通知を強行した。対象となる首都圏7支社でも一斉に配転の通知が行われている。われわれは、満腔の怒りを込めて配転強行を弾劾するとともに、例え何年かかろうとも、ライフサイクル制度そのものを粉砕するまで闘い続けることを宣言する。

●緒戦の大きな勝利

われわれは、今春闘以降、これはJRに働く全ての労働者の問題であるという立場にたって、いついかなるときでもストライキに突入することのできる闘争体制を確立し、ライフサイクル攻撃粉砕に向け、全力をあげて闘いぬいてきた。とくに4・14支部代表者会議以降、万全のスト準備体制の確立を背景に、「説明会」での抗議追及、5・8総決起集会の開催、団体交渉の強化、弁護団との法的検討、そして何よりも職場における怒りの声の組織化等、当面の獲得課題である滝君の不当配転を阻止するために組織の総力をあげた臨戦体制をとって闘いを展開してきた。

●勝利の展望をつかんだ！

そして、滝君の駅への不当配転を阻止するという緒戦における大きな勝利をかちとった。

何よりも大きな成果は、数ヵ月間に及ぶ闘いによって、この攻撃が、無理を押し通すがゆえに矛盾に満ちたものであり、職場から絶対反対の怒りの声を組織して立ち上がれば必ず粉砕できるという展望をつかみとったことである。

何よりも「労資合意」のみならず、当該運転士に「配転承諾書」（面談調書）まで書かせるというやり方は、ライフサイクル攻撃の理不尽さを会社が自認したに等しいものだ。無理を通し不利益を強制しようとしているからこそこんなことまでやらざるを得ない。

だから、JR東日本本社は、5月16日の団交では「労働協約を締結していない労働組合には協約（覚書）の効力は及ばない」と言わざるを得なかったし、「自分は絶対行きたくないから面談調書は書けない」と言った東労組の組合員には、「あなたの組合は覚書を結んでいるのだからそれは通用しない」と恫喝して無理遣り書かせるということまでやったのである。当局は「協約の効力は及ばないが通常の異動としてやる」などと言うが、こんな矛盾は絶対通用するものではない。

4・26尼崎闘争

さらに言えば、会社は、駅輸送職は10年後にはほとんど全て運転士で充当するというシュミレーションを行っており、一方駅営業職は、全面的な契約社員化が進められているが、そうしたときたときに、ライフサイクルどころか、車掌や運転士になっていく母体はどうなるのか等、将来の展望について、会社は何ひとつ答えることもできなかった。まさに矛盾だらけなのである。

●東労組の裏切り弾劾！

改めて東労組等の裏切り妥結に怒りの声をあげなければならない。これほど矛盾に満ちた攻撃をなぜ裏切り妥結し、組合員を会社に売り渡したのか！　本質的な問題は何ひとつ追及せず、会社と一体となって隠したのだ。それを「成果」と称したのだ。それで組合員が苦しんでいるのだ。こんなもの呑まなければならない理由は何ひとつない。あるとすれば、組合幹部が会社とうまくやりたいという腐った根性だけである。鉄産労も国労もJR労組も同罪だ。

われわれはこんな現実を現場から覆し、団結を回復するために、さらに闘いを強化しなければならない。

●勝利の核心は何か

滝君の配転を阻止するという緒戦の大きな勝利は、何よりも第一に、攻撃の矛盾を徹底的に突いた絶対反対の全組合員をあげた闘いによってかちとられたものだ。

第二に、シニア制度以来7年間にわたる「第二の分割・民営化攻撃」との闘いの成果でもある。当時当局は「少数組合の団体交渉権を尊重しなければならないから」などと称して、動労千葉組合員の再雇用を拒否して首を切ったのである。こんなデタラメを重ねてきたことが、ライフサイクル協定では自らにはね返ってきている。展望は非妥協の闘いの中でこそ切り開かれるのだ。

第三に、平成採の仲間をはじめ、職場の怒りの声を全力で組織したことによってかちとられた。労働者の力は職場の団結にこそある。職場が怒りの声で燃え上がったとき、御用組合がどんな裏切りをしようと、当局の理不尽な攻撃は必ずはね返すことができるのだ。

●何年かかろうが闘いぬく

われわれは緒戦の勝利をかちとった。しかし闘いは第一ラウンドの鐘が鳴ったばかりである。われわれは闘いを継続する。何年かかろうがライフサイクル制度そのものを粉砕するまで、全力を尽くして闘いぬく決意である。

次の配転は2月とも3月とも言われている。改めて平成採の仲間たちに訴える。絶対あきらめるな！　動労千葉に結集しともに闘おう！

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう！

不屈に闘う争議組合へご支援を！

動労千葉の'08年夏季販売にご協力を！

動労千葉の物品販売へのご支援ありがとうございます。動労千葉は08春闘をストライキで闘い、そして５月ライフサイクル攻撃粉砕の闘いに決起し、大きな勝利を勝ちとりました。この闘いは今後も続きます。1047名闘争はあくまで解雇撤回を掲げ、JR職場での闘いを重視し、勝利するまで闘い抜く決意です。物販闘争を各人の職場で広めて頂くようお願いします。

国鉄千葉動力車労働組合　協販部

TEL　043－227－7833
FAX　043－227－8125

国労小倉闘争団NIPPOの2008年夏季物資販売にご協力を

国鉄1,047名の解雇撤回・原職復帰

新自由主義の攻撃の国鉄分割・民営化から21年。闘う国鉄労働者の反撃で、解雇撤回・現職復帰の闘いの爆発を作るためにNIPPO事業部は奮闘します。５・27臨大闘争裁判の発展を勝ちとった地平でJR資本、国家権力との闘いに勝利するために夏季物販へのご協力をお願いいたします。

国労小倉地区闘争団　NIPPO事業部　羽廣　憲

〒824-0241
福岡県京都郡みやこ町犀川内垣164
TEL　0930-42-3700
FAX　0930-42-3701

ス労自主支援 2008年夏物品販売にご協力を！

8名の不当解雇撤回！

いつも元気なス労自主の夏季物販闘争へのご支援、よろしくお願いします。

この夏は、８名の不当解雇撤回闘争を軸に、国鉄闘争の一層の発展・強化を我が闘いとして、全力で闘い抜く決意です。

特製メロンも順調に育っています。三里塚のピーナッツもなかなか好評です。交流センターの仲間ひとりひとりの支援に、ス労自主は、応えきる労働組合であり続けます。

スタンダード・ヴァキューム石油自主労働組合

大阪府豊中市新千里東町1-2-8
モービル石油内
TEL＆FAX　06-6873-3865

私たち沖縄バヤリース労組は、「沖縄労働運動の強化で、打ち破れ分断！　取り戻せ団結！」を合言葉に08年夏季物資販売を行なっています。今、労働者の団結とストライキは、国境を越えて一つの闘いに合流しています。私たちは、解雇・組合つぶしとの８年間の闘いの中で再加盟と新たな組合員の獲得に突き進んでいます。物価高騰の厳しい生活の中から、是非とも私たちの物販運動へのご協力をお願い致します。

沖縄バヤリース労働組合　物販センター

〒901-0603
沖縄県南城市玉城字百名509
TEL　090-2710-2008
FAX　098-948-1651

交流センター女性部第15回定期大会開催される

女性部副部長　辻川　あつ子

第15回全国労組交流センター女性部定期大会が4月26日～27日、千葉市DC会館において開催されました。当日の準備打ち合わせ時点で、関西地区から新たな参加という方たちも含め数名が出席されると聞き、その知らせは既に大会の成功を予感させるものとなりました。

4月26日JR尼崎事故から3年目、事故弾劾の集会が尼崎現地で開催されるという中、女性部大会に自らのたたかいの出発として参加を決めた会員、なんとしても尼崎集会を成功させるために仲間と参加し、集会終了後女性部大会の討論に合流するという会員、階級的労働運動路線で一致するという関西地区の女性労働者たちの決意が大会全体を高揚させました。

そして、その関西の女性部会員の熱い思いとともに、「根津公子さんの解雇許すな」を最先頭でたたかった女性部会員の勝利感、3・8国際婦人デー行動とイラク開戦5周年世界一斉デモを青年労働者と共にたたかった首都圏の会員の勝利感と一体となり、会場はそれぞれの再会を喜ぶあいさつや、教育労働者同士の「根津さん勝利」の確認やたたかいの労のねぎらいは感動的でもありました。

長谷川女性部長は、「資本主義が行きづまっている。労働者階級は資本家階級と徹底的に対決したたかっていく以外に生きられない。青年労働者が階級的労働運動路線を生きさせろというたたかいとして職場で先頭になってたたかっている。女性部は11月労働者集会に向かって、職場や地域の多くの青年女性労働者を獲得していきたい。」と08年の決意・課題をあいさつの言葉とし、女性部会員の決起を訴えました。本部からは副代表の二本柳実さんが「既成の女性部運動と違う交流センター女性部とはどういう運動なのか、交流センター女性部運動を明確にする討議をして欲しい。『日の丸・君が代』不服従という教育労働者のたたかいは、拡大して国際連帯の地平まで勝ち取った。一人の労働者が革命的主体として登場することが情勢を大きく変えることが可能だと実証した、11月労働者集会の決起を作り出そう。」とあいさつされました。

婦人民主クラブ全国協議会西村あや子代表、三里塚反対同盟、都政を革新する会・北島邦彦杉並区議からのメッセージ紹介に続いて、議案の提起を三役から行いました。

議案全体に貫かれた路線と総括、方針は、資本主義が行きづまり、その最末期に至り、支配者階級が労働者をいままで通り食べさせられない時代に、青年労働者が「自分の職場で、隣の労働者と団結して、資本と非和解の闘争をやる。」という階級的団結論と絶対反対論を実践している、たたかわないところに団結は作れない、自分の職場で非和解に資本とたたうことによって労働者を組織できるし、どんな困難があってもそれをやろうということです。

議案提起の後は、東京の教育労働者の米山良江さんから、根津さんの解雇許すなと「日の丸・君が代」不起立をたたかい抜いた特別報告がされました。教育労働者・支援者一体で取り組んだ連日の都庁抗議行動、いままでの人生を懸けた「私はこれまで不起立してきたのに、根津さんだけ処分するな」と、分断を許さないたたかいを積み上げていった過程は、ほんとうに創意工夫・非妥協のたたかいをやりきったという内容でした。定年後の非常勤雇用は無くなったがたたかいを続けると宣言し、さすが！　よーっし！　と拍手が起こりました。

初日の討論は、実践に踏まえた合同労組や労働学校の報告もあり、内容豊富であり、まずは一人からという奮闘も、自分の職場で仲間を作るという具体的実践をやった結果うまくいかないことも含め（争議や労働相談を、その後の運動にどうのように組織していけるのかなど）出されました。

ここでは、東京北部の労働者の発言要旨を紹介します。東京北部では職場闘争委員会という組織を作り、構成する4労組でそれぞれの職場のたたかいについて、特に焦点化している労組のたたかいについて、意見交換する会議を行ってきているとのこと。それぞれの労組のことが自分の労組のように理解出来たり、自分の労組だけ考えて行きづまる状況も他の労組から助言を貰ったりし、連帯感も持てるようになったこと。地区集会の成功にもつながったとの報告でした。

2日目は、八尾北医療センター労働組合委員長の藤木好枝さんから西郡住宅闘争の報告がありました。たたかう仲間との団結を求めて労働組合が主軸となってたたかっていると言う報告は、関西での激烈なたたかいの息吹が伝わるものでした。

女性部第15回定期大会（4月26日　DC会館）

尼崎闘争を終えて参加した南大阪の会員からは、尼崎現地の労働者の怒り、その大結集が報告されました。九州から、広島から、関西からはじめて参加した会員の決意がほんとうに揺るぎのないものでした。また、自分の地区の事務局や責任者の従来の体質がなかなか改善されない問題なども、前向きに路線的たたかいを進める中で解決し克服していこうという発言もありました。一般の労働者を労働者階級として獲得する中で、活動家自身も学び鍛えられ団結が強化されます。関西の女性労働者の「そもそも労働運動は体制内の運動や。という奴らには負けられない」に同感です。参加者全員が発言。発言をすべて報告できないのが残念です。

青年労働者と一緒にたたかえば、少しの曖昧さもなく、「あなたのここが体制内ですよ。あなたは、自分の職場でどうたたかうの？」と、指摘がビシバシ飛んできます。まず自分が自分の職場でたたかって、青年労働者を獲得するところからすべてが開始されます。階級的労働運動路線貫徹！サミット粉砕、11月労働者集会一万人結集へ。

■執行部答弁・まとめ

2日間で、延べ33人の方が貴重な報告と意見を発言がありました。最初に、神奈川のKさんから「女性部って何なのか」という問いかけがありました。

交流センター女性部を結成した契機は、総評がなくなって、婦人部、青年部がどんどん解体されていった。自治労ではユース部と名称を変え、レクリエーションぐらいしかやらないものに変質させられていった中で、1994年9月23日、交流センター女性部を結成しました。私たち女性部が目指しているのは、労組女性部、闘う団結体を作り上げることです。

階級的労働運動を職場で実践する苦闘の1年間の報告が2日間の討議の中心だったと思います。青年労働者からの突きつけに挑戦と苦闘が多くの人から出されたかと思います。

彼女・彼ら青年労働者の怒りは、こんな奴らが支配している社会に生きていきたくない。だからこいつらを擁護したり、折り合いをつける存在は絶対許さないという激しい怒りです。それは、「交流センターはどうなの？」ということだと思います。

もう1つ、青年労働者の「団結」の中で生み出してるエネルギーの凄まじさです。私たちのあり方、経験を根底から吹っ飛ばすエネルギーと創意工夫にあふれてます。ここに、労働者が団結した時に生み出す力のすごさ、社会を変える力があると感じます。

私たちに染みついた古い体制内的な思考を吹っ飛ばしてくれる最大の援助だと思います。自分の地域で労働学校を開催し青年労働者と共に闘える交流センターに、女性部になっていくことをまとめにします。

6～7月サミット決戦、11月労働者集会に向かって、去年よりもまた一段と飛躍した闘いを実現できると確信しています。共に頑張りましょう。（『うでまくり83号』から抜粋）

問団」を除去することを要求する。また、外国軍がイラクを占領している間は、公的サービスや資源に関する重要な経済的決定ができないとするこれらの勢力による合意を撤回することを要求する。

4）われわれはアメリカやその他の国の政府が、石油の管理をエクソンやBP、シェルなどの多国籍企業に手渡し、イラクを破滅させる石油法を通過させようと働きかける活動を直ちにやめることを要求する。われわれはイラクが占領されているかぎり、すべての石油会社が石油に関するいかなる長期協定も締結できないよう要求する。われわれは、イラク政府が現在の石油法案を廃棄し、イラク人民との全面的で真摯（しんし）な協議を行ったうえで正しい石油政策を立案することを要求する。すべての占領軍が撤退した後に初めて、石油資源の長期開発計画が策定されるべきである。

われわれは、われわれがイラクの軍事的･経済的占領を終わらせる手助けとなるあなたがたの支援と連帯を求めている。われわれの労働者としての権利と公共サービス、資源を守るための団結権とストライキ権確立のためにあなた方の連帯を求めている。われわれの公共事業は、何代にもわたるわれわれより前の世代から未来の世代への遺産であって、民営化されてはならない。

われわれは、あなた方のわれわれへの支持に感謝します。

われわれもまた､あなた方の真の民主主義に向けた闘い､民営化と搾取､労働現場や日常生活での権利剥奪（はくだつ）との闘いを支持します。

われわれは、われわれと連帯し、占領を終わらせるためストやデモを組織するあなた方に賛辞を送ります。そしてこれらの行動を続けてくださるよう望みます。

われわれは、協力と団結に基礎をおく世界が到来する日を待ち望んでいます。戦争、宗派主義、競争や搾取のない日を待ち望んでいます。

■賛同人（08年4月29日現在）

Hassan Juma'a Awad	イラク石油労組連合（IFOU）議長
Faleh Abood Umara	IFOU中央評議会・副委員長
Falah Alwan	イラク労働者評議会・労働組合連合（FWCUI）委員長
Subhi Albadri	イラク労働者評議会・労働組合総連合（GFWCUI）委員長
Nathim Rathi	イラク港湾労働者組合・委員長
Samir Almuawi	工学専門職組合・委員長
Ghzi Mushatat	機械工印刷所労組・委員長
Waleed Alamiri	電力労組・委員長
Ilham Talabani	銀行労組・委員長
Abdullah Ubaid	鉄道労組・委員長
Ammar Ali	運輸労組・委員長
Abdalzahra Abdilhassan	サービス従業員労組・委員長
Sundus Sabeeh	理髪店労組・委員長
Kareem Lefta Sindan	イラク労働者総連合（GFIW）製材建設労組・委員長
Sabah Almusawi	ワシット州独立労組・委員長
Shakir Hameed	製材建設労組（GFWCUI）委員長
Awad Ahmed	Salahideen Alaa教師連合・委員長
Ghazi Mushatat	農業食料産業Adnan委員長
Rathi Shakir	水資源労組・委員長
Nahrawan Yas	女性関連局・委員長
Sabah Alyasiri	GFWCUIバビル州委員長
Ali Tahi	GFWCUI委員長
Najaf Ali Abbas	GFWCUIバスラ州委員長
Muhi Abdalhussien	GFWCUIワシット州委員長
Ali Hashim Abdilhussien	GFWCUIカルバラ州委員長
Ali Hussien	GFWCUIアンバル州委員長
Mustafa Ameen	アラブ労働局（GFWCUI）委員長
Thameer Mzeail	医療サービス組合委員会
Khadija Saeed Abdullah	教員連合・組合員
Asmahan Khudair	女性関連・繊維工業労組
Adil Aljabiri	石油労組・執行委員
Muhi Abdalhussien	Nadia Flaihサービス従業員労組
Rawneq Mohammed	メディア印刷所労組・組合員
Abdlakareem Abdalsada	GFWCUI副委員長
Saeed Nima	GFWCUI副委員長
Sabri Abdalkareem	GFWCUIバビル州組合員
Amjad Aljawhary	北アメリカGFWCUI代表

イラク全港湾労働組合よりアメリカ ILWU へ

4 月 28 日

カリフォルニア ILWU の兄弟姉妹の皆さん。

イラクでの戦争と占領に抗議するためにメーデーストライキを決行するというあなたたちの勇気ある決断は、占領に反対し、われわれと全世界の人びとのより良い未来を実現しようとするわれわれの闘いを前進させてくれます。

われわれは労働者だけがより良い世界を作ることができるということに確信を持っており、あなたがたの行動はその実例であり、証左です。社会の中で労働運動こそが政治の現状を人類の利益のために変えることのできる唯一の要素です。イラクのわれわれは、あなた方を尊敬し、米国政府の野蛮行為に対する勝利が成し遂げられるまで、あなた方を支持します。

過去５年にわたって、占領が生み出した宗派の一味は、われわれ労働者の中に対立を持ち込もうとした。労働者やその居住地域、市場などを標的にし、無差別にいろいろな爆発物や迫撃弾を使い、銃を乱射したことは、社会を破壊しようとする大きな企みの一部だったが、彼らは惨めにも彼らのこの凶悪な目的を達成することができなかった。われわれは今、占領当局と宗派民兵の狙いの双方に打ち勝つために奮闘しています。

占領を支持するカイライ政権は、労働者の問題に介入し、政府にコントロールされた単一の官製組合を押し付けようとしてきた。のみならず民営化を進め、石油・ガス法を制定しようとし、労働者の利益に反して占領を支えてきた。

われわれ港湾労働者は、われわれの利害はイラクや全世界の労働者の利害と不可分だと考える。したがって、われわれは労働者の生活条件を改善し、占領当局のあらゆる陰謀、経済的、政治的プロジェクトを打ち負かす決意です。

われわれの闘いの勝利のために手をつなごう。カリフォルニア港湾労働者万歳！　メーデー万歳！　国際連帯万歳！

イラク全港湾労働組合（GFWCUI〔イラク労働者評議会・労働組合総連合〕加盟）

イラク労働運動の 2008 年メーデーメッセージ
世界の労働者と平和を愛する人々へ

2008 年 4 月 29 日

国際的な労働者連帯のこの日に際して、戦争と占領に反対して立ち上がった仲間の労働組合や世界のすべての人々に対し、私たちは軍事的・経済的占領からの自由を勝ち取るわれわれの闘いへの支援を強めてくださることを呼びかける。

われわれは、現在も続いているイラク占領を支える諸政府と諸企業、諸機関に対し、真の民主主義と、あらゆる外国からの干渉を排した主権と自決権を求めるわれわれの要求に応じるように要望する。

５年間の侵略と戦争、占領は、破壊と苦難、苦痛のみをイラク人民にもたらした。イラクの「解放」の名の下に、侵略者たちはイラクのインフラストラクチャーを破壊し、われわれの居住地域を爆撃し、住居に乱入し、子どもたちの心を傷つけ、国の財産を略奪し、多くのわれわれの家族や隣人たちを襲撃し、逮捕し、国宝の略奪を容認し、ほぼ 20％ものイラク人を難民にした。

侵略者たちは、かつてイラクには存在しなかった宗派的分断やテロ攻撃を扇動し、それを利用した。組合の事務所は襲撃を受けた。組合財産は差し押さえられ、破壊された。組合の銀行口座は凍結された。組合の指導者は殴打され、逮捕され、拉致され暗殺された。われわれの労働者としての権利は日常的に侵害された。

公共部門と公共企業（労働者の 80％を雇用）において労働組合を結成することを禁止するバース党の 1987 年の法律は、現在も効力を持ち、侵略後のボール・ブレーマーの占領当局とそれ以後のイラク政府によって執行された。これは労働者の権利と民主主義社会の基本的規範の侵害であり、イラクにいまだにつきまとう独裁の影を不気味に想起させるものである。

イラクの恐るべき状況にもかかわらず、われわれは占領と、職場での虐待に抗し、またよりよい処遇と安全な労働条件を要求して組合を組織し抵抗し続けている。

われわれを取り巻く宗派的陰謀にもかかわらず、われわれは統一と団結を信じ、公的サービスと平等という共通の目的、外部からの介入や強制なしに組合を組織する自由の正当性を確信している。

われわれの正統性は、組合員から与えられる。われわれの組織原則は透明性や ILO の国際的に認められた基準を基盤としている。

われわれは全世界の仲間や平和を愛する人々が、われわれが自分たちの未来を描くことができるように、われわれの占領の悪夢を終わらせ、主権と独立を回復するのを支援してくれることを訴える。

1）われわれは外国軍のイラクからの即時撤退を要求し、アメリカとの間の長期にわたる軍事基地と駐留に関する協定を断固として拒否する。占領の継続はイラクにおける暴力を沈静化させるどころか激化させる。イラクには完全な主権が返還されなければならない。

2）われわれは憲法で保障された労働法の制定を要求する。それは労働者の団結権、団体交渉権、ストライキ権、国家の管理と干渉からの独立権を守るために、ILO の原則に基づくものであり、イラクの労働組合員が全面的に意見を聴取されるべきものだ。

3）われわれは、わが国の経済主権に国際通貨基金やアメリカ、イギリスが干渉するのをやめることを要求する。IMF のイラクとの協定に付随する経済的諸条件を撤廃し、イラク政府の周辺からアメリカやイギリスの「顧

5・18「復帰36年　5・15平和とくらしを守る県民大会」、4千名怒りの結集

動労千葉といっしょに闘う仲間が堂々決起

沖縄労組交流センター

5・15沖縄復帰の日は、労働者が米軍政下の沖縄の現実を打ち破り、日本の歴史を根底から塗り替えた闘いの日であるとともに、沖縄を革命の火薬庫に転化させないための日米両政府による5・15体制との新たな闘いの始まりの日だ。

嘉手納町・金城正子さん66歳は、5月15日付琉球新報紙の投書で次のように言っています。

汗と涙と雨の本土復帰の闘い

「36年前の私たち県民の悲願の復帰は、汗と涙と雨の中からだった。復帰の日を迎えるまで、いろいろな道のりが沖縄にはありすぎた。

戦争に負けてずたずたに切り裂かれた人々の心と郷土。これに追い打ちをかけるように『サンフランシスコ講和条約』で日本政府は沖縄を担保にした。それが1952年の4月28日。その屈辱の日から沖縄の人々の復帰闘争が始まった。

教職員団体や官公労、沖交労、軍作業団体、労働組合が団結して『沖縄を返せ』と鉢巻きをし、旗を掲げて日本本土に一番近い場所、沖縄最北端の辺土岬（へどみさき）まで行進した。季節はきまって雨だった。

果たして沖縄県民は本土復帰を、もろ手を挙げて納得して喜んだだろうか。核抜き、基地は本土並みになっただろうか。県民は健康で文化的な生活を営んでいるといえるのだろうか」と述べています。

こうした労働者の怒りを原動力として、「復帰36年　5・15平和とくらしを守る県民大会」（宜野湾市海浜公園野外劇場）は、平和行進団を含む4千名が結集しました。

裁判権放棄、日米密約を暴露

韓国の労働歌などでメジャーな社会派バンド「希望の歌コッタジ」で県民大会は幕を開けました。

教科書検定意見撤回を求める県民大会、米兵による事件・事故に抗議する県民大会で中心的役割を果たしてきた玉寄哲永（沖縄県子ども会育成連絡協議会会長）さんは、米兵事件の裁判権を日本側が放棄することで日米両政府が密約に合意していたという報道を紹介し、「政府は沖縄を米軍の勝手放題にさせているではないか。すべての問題で政府はうそばかり。沖縄の心、全国の声を受け止めるべきだ。県民の70％の不満は、基地の問題、経済格差、教科書の改ざんの3点セットだ。会場には、教え子を戦場に送るな！　のスローガンが掲げられている。平和と人権を守り抜いて闘いましょう」と力強く訴えました。

韓国のインチョン労働文化祭組織委員会のイ・ウンジョンさんとキム・ヨンテクさんは「28年前の5月18日は、光州蜂起の起こった韓国にとって重要な日。今日、この闘いの思いを共に感じられた。世界の労働者が労働運動を繰り広げている中で共に平和なアジアをつくって行けると思う」と訴えました。

また、県民大会を前後する様々な交流の場では「韓国の抵抗運動と沖縄の抵抗運動は、連帯に止まらず合同（連合）へと発展させるべきだ」との強力な呼びかけが発せられています。

動労千葉と一緒に闘おうと訴え

沖縄労組交流センターは、電通部会と合同労組の部隊で会場入り口をおさえ、「動労千葉といっしょに闘う仲間になろう！　労働者の団結で沖縄の基地をぶっ飛ば

せ！」、「世界は今、労働者のストライキの時代」という宣伝を展開。勢いのあるビラはむさぼるように読まれました。

衝撃的だったのは、動労千葉と共に歩むＩＬＷＵ（国際港湾倉庫労組）が５月１日、イラク・アフガニスタン戦争の即時停止を要求し、「平和でなければ働かないメーデー」行動で米西海岸29の港をすべて止めたニュース。そして、これに呼応して、イラク港湾一般労組が事実上全港湾でのストライキに決起している事実でした。

１００の言葉より、目に見える一つの本物の闘いが労働者の心をとらえる。体制内労働運動を打破し、職場・生産点で団結したとき、戦争による分断をぶっ飛ばし、世界の労働者は一つの階級として団結することができるという事実が県民大会に結集した４千名の労働者の魂深くに刻み込まれました。

闘う青年労働者２００名が結集

５・18県民大会をリードしたのは、全国で動労千葉労働運動を実践し、闘う中で仲間＝団結をつくりあげて来た沖縄と本土の青年労働者、学生２００名の登場でした。

また同日夜から、那覇市内の沖縄青年会館にて「５・18　オキナワとヒロシマを結ぶ全国青年労働者交流集会」が開催されました。

集会には、本土から５・15闘争を闘うために、職場闘争で「有休」を勝ち取り、結集した合同労組の青年。会社による雇い止めを徹底的に弾劾し、職場の仲間と団結した闘いを繰りひろげてきた全逓の青年。橋下大阪府知事を徹底弾劾した自治体労働者。「日の丸・君が代」不起立の40秒ストを闘った教育労働者らが結集。私たち沖縄の青年労働者からは、「革命の火薬庫＝沖縄にようこそ！」と全国の仲間へアピールが発せられました。

動労千葉、青年部登場へ

全国青年労働者交流集会では、冒頭Ｖ字型沿岸案と対決して辺野古で闘う富田晋さんからの訴え。

沖縄高教組から祖父母が「集団自決」の犠牲となった宮城千恵先生からの講演。

つづいて、動労千葉を代表して新小岩支部長・佐藤正和さんがアピール。第２の国鉄決戦に勝利し、その力で「来年は、動労千葉青年部の旗を沖縄闘争に登場させる」と断固として宣言しました。

ホップ、ステップ、沖縄奪還！

３・16イラク反戦全世界一斉デモが生み出した分岐との真正面からの格闘、苦闘にもがきながら、その主体的突破をかけて５・18沖縄闘争は、沖縄の青年労働者自身の闘いとして勝ちとられました。「ホップ、ステップ」とは、青年労働者の階級的指導部への飛躍・転換そのものです。沖縄と本土をつなぐ団結の力とは、こうした壁を乗り越える組織的力、目的意識的あり方そのものです。

集会で発言に立った沖縄の仲間は、職場支配権の確立＝職場の団結は何時かこわれてしまんじゃないか？　常に「分裂」の身も凍るような恐れの中に自分はあった。

「本当に現場で動労千葉のように闘おうとしているのか」と言う同志的批判と自己格闘。そして、ここがチャンスだ！　労働者の階級性にとことん依拠し信頼して進むこと、この動労千葉の原則で生まれ変わる。ここをはずさないという決意を述べました。

集会の最後、まとめとして、医療労働者から、「キーワードは、職場闘争から反転攻勢に出ようということです。洞爺湖サミット粉砕に立ち上がろう！　体制内指導部が何と言おうと、これが組合執行部だと言う職場闘争委員会を全ての職場につくろう」と訴えました。

沖縄と本土の労働者の団結

これまで帝国主義による分断、さらに裏切りと屈服の体制内指導部や「労働者には闘う力はない」と言う血債主義的思想でズタズタにされて来た沖縄と本土の労働者の団結は、青年労働者の闘いは打ち破っています。

本年５・18沖縄闘争は、労働者階級の闘いによって、ついにこの団結を取り戻し、本当の沖縄奪還を実現して行く新たな歴史を切り拓いたのです。

闘う合同・一般労組　第3回

不当な配転を許さない

――合同労組かながわ　藤村浩光

私は神奈川の民間化学産業の労働者です。不当な配転命令に対してこれを拒否し5月から門前就労闘争を闘っています。就職した会社の子会社に出向中で、管理職昇格を拒否したところ、報復的な配転命令→命令拒否→出向解除・親会社の別事業所へ配転→これも拒否、門前闘争、という状況です。また合同労組に加盟し分会を立上げて、今回の一連の不当な人事に抗議し団体交渉の場でも闘っています。

帝国主義を下支えしている民間製造業では、会社当局と体制内組合とが、社則、労働協約、社内慣行、職場の空気までがっちり固めています。その中で会社が労働者管理の面で最も大事にしている人事権、懲戒解雇という最も重い処分を背景にしても従わせたい人事権、今回はこれに真っ向から立ち向かう闘いです。

会社は人事権がないと会社が回らないと思い込んでいます。たしかに資本家の思うようには回らないでしょう。労働者の人間性を認めているふりをしてうまく飼いならし、うまく搾取していくやりかた。労働者から不満が出ない程度に締め付け、足並みを乱す者（会社に反抗するもの、人事考課の低い者など）を排除する、また排除されても仕方ない、というような雰囲気作り。労働者が職場を支配することで、この空気を変えていきたいのです。

今回の当局の攻撃は、あめとムチを使い分け、懲戒解雇をちらつかせて脅したり、条件のいい職場を出してきたり、親方根性丸出しで「俺についてくれば悪いようにはしない」などと言ってきて、雇用確保の代わりに〝転向〟を勧めたり、争議を未然に防ごうとする、というやり方でした。この攻撃に対して、迷いぐらつく自分の気持ちとの闘いという面が大きかったので、その点を中心に報告してきたいと思います。

闘いの始まりは「俺は奴隷じゃない」でした。同期の仲間がほぼ管理職に昇格し、自分ももう間近な雰囲気でした。昇格することで、会社や上司には文句が言えない立場になるのは嫌だし、労働強化、責任強化、精神的圧迫の強化は目に見えてました。しかし拒否して波風をたてることで、社内での今後の自分の立場はどうなるのか、世話になっている（と思わされていたのかもしれない）上司を裏切る行為になるのではないか。しかし、組合員という立場になくても労働運動はできるのではないか、管理職という位置に労働運動家がいても良いのではないか、とも思いました。

しかし仲間が励ましてくれました。この頃から神奈川の青年労働者の集まりに顔を出すようになっていて、その中で「管理職という資本側の立場で労働運動ができるのか」「資本側の労働者管理の根幹をなす人事権を労働者側に取り戻す闘い、労働者の誇りのための闘いなんだ」と言われて勇気づけられました。

また自らが闘う主体にならなければ、という気持ちもありました。君が代不起立の闘いがテーマの集会に行ったときに、多くの発言者は〈根津さんを解雇から守るための呼びかけや都教委への働きかけ等をやっていこう〉という発言でした。しかしその中でも〈根津さんと連帯してそれぞれが不起立を実行し、広げていくことで、根津さん解雇を阻もう〉という発言がありました。そのあと別の会議でこの集会のことが話題になり、〈不起立を広げていこう、というのが原則的な闘いだ！〉という話になって、これだ、と思ったのです。自分は身分を保証された立場（といっても末期の資本主義社会における身分ですが：）にいて、闘っている人に手をさしのべる、ということではなく、闘う主体にならなければ、と思ったのです。

そうして決意を固め、上司に自分の考えを伝えました。説得と説教が延々続きますが、折れずに意志を貫くことができました。これも仲間がいてくれたおかげです。

その後1カ月もしないうちに営業への異動がきまったと出向先の会社から言われました。これも本能的に拒否できました。異動拒否は懲戒解雇につながる、ということは知ってはいましたが、反射的にこれは拒否だ、と思いました。このあと当局（出向先）の説得が延々続きます。

このとき、当局とのやりとりはなるべく他の労働者のいる前でや

ろう、と決めたのですが、まだびびっている気持ちがあって、十分に実行できなかったのは反省点です。

当初は出向会社からの説得でしたが、親会社も乗り出てきて、処分（懲戒解雇）ということばがついに出てきました。これに対して、会社で1人で考えて異動を受け入れてしまいました。数日間よく闘った、と自らを合理化しながら。しかしながらその敗北感たるや、耐え難いものでした。しかも3・16の直前で、〈こんな気持ちで3・16を迎えるのか〉という気持ちもありました。

再び仲間と集まりました。やはりクビはいやだ。食べていくことも必要だ。異動拒否―解雇となると現場の労働者としての活動ができない、それよりは配転になっても今の親会社の中で革命をめざす労働運動を組織していくほうが良いのではないか。解雇になってしまったら異動拒否―解雇の前例をもう1件つくってしまうだけではないか。一方、異動を受けることは労働運動家として「骨が折れる」ことではないか。この局面で闘えないようならば、結局今後も妥協を繰り返していくだけではないか。

結論として、一緒に闘おう、みんなこう言ってくれました（と思う。そういう発言しか覚えていない）これで仲間を信じることができました。神奈川の仲間とともに徹底的に闘いたいと思いました。

やはり仲間は大事だと思いました。一旦異動命令を受けてしまったのは、会社で当局と1対1で話していたときでした。しかし仲間とじっくり議論することで、いちばんやりたかった闘い、いちばん原則的な決断ができました。また、当該との1対1の話し合いで結論を出させようとする当局の手口の意図もよくわかりました。

すっきりした気持ちで3・16を闘い抜き、翌日「やはり納得いかない。異動は白紙撤回してほしい」と出向先の当局に伝えました。すると1時間もしないうちに親会社の当局から、これ以上拒否したら懲戒解雇だ、裁判は受けて立つ、判例は会社に正当性がある、自己都合退職か懲戒解雇を選んでもらうことにことになる、と言ってきました。しかし、ひるむことなく改めて異動は納得できない、と主張できました。とはいえぐらつく面もあったので再び仲間と集まり、決意を固めて自宅に戻ると、留守電に代案を考えたので連絡ほしい、とのこと。その代案とは出向解除、親会社に戻れ、との内容でした。

このあたりの局面から当局の方針がグラグラしてきました。こちらの徹底拒否に対して、懲戒解雇から出向解除となってきました。それも拒否していると、今うんといえば技術の職場を準備するが、うんといわなければ窓際しかないぞ、と言ってきました。それでもなお出向解除は納得いかないというと、売上好調部門の技術系の職場を準備してきました。それも拒否してあくまで現職場（出向先技術職）という原則を貫いていると、親会社の中で働きたい職場をどこでも選んでくれ、というところまできました。単なる脅し（懲戒解雇、窓際）を、徹底拒否、絶対反対、処分を恐れない態度によって粉砕した、ということです。実はこのあとも、やはり親会社に残る選択もあるかも、という迷いや、親会社常務の説得にぐらつくところもありましたが、結局は仲間との団結で原則を貫き通すことができました。

このあと当局は、4月いっぱいで現職場から、親会社の売上好調部門の技術職への配転という人事を強行してきました。これに対してはあくまで現職場にこだわる方針で、職場ビラにはじまり、合同労組加盟・団体交渉申入れ、配転拒否・門前闘争、街宣活動と闘っています。団体交渉においては、合同労組の仲間とともに出向制度の矛盾を徹底追及し当局を追い詰めています。今後とも徹底的に闘う予定です。

これまでの闘いを振り返って感じたのは以下のことでした。団結を総括軸、原則を貫く、これらはことばで理解していても、実践するのは大変だ。しかし、たとえ迷いぐらついても、そこで仲間と徹底的に議論して原則を貫く方針を固め、闘いながら仲間との団結を強めることができる。闘う仲間は何物にも代え難いものだ。また、たった1人の決起でも徹底的に闘うことで資本をぐらつかせることができる。

やってられないぜ！

メンタル症状増加

5月23日、厚生労働省のまとめによって、仕事のストレスが原因でうつ病などの精神障害になり、07年度に労災が認められた人が前年度の1・3倍の過去最多を更新したことがわかった。認定率が低いなりに増加している。そのうち、過労自殺も15人多い81人（未遂3人含む）でこれも過去最多。長時間労働や成果主義が広がる中、心の病に悩む人が増えていることが厚労相の資料でもはっきりした。精神障害による労災請求件数も前年度比16％増の952件で、過去最多だった。

行政や経営側が、糊塗的に打ち出している方策など何の効果もない。また、既成労働組合指導部は、こうした事態の進行に対して労働者の怒りを組織するのではなく、ただ何もせずに茫然とたちすくんでいるだけだ。使い捨てにされ、その責任を誰もとろうとしない世の中なんてまっぴらだ、まったくやってられないぜ。

職場の精神疾患は増大

㈶労務行政研究所の最近の調査によると、メンタルヘルス不調者が最近3年間で「増加している」とする企業は55・2％と過半数を占めている。メンタルヘルス不調で1カ月以上休職している社員がいる企業は62・7％で，3年前の前回調査（50・9％）よりさらに高まっている。全従業員に対する休職者の比率はおおむね200人に1人の割合となっている。（08年5月8日付『労政時報』）

公務員労働者については、より一層深刻な状況にある。都庁職新聞06年12月号には、「都職員の90人に1人が精神的不調により、30日以上の長期療養を余儀なくされている」という事実が記載されている。

労災認定の高いハードル

このように多数の労働者が休職を余儀なくされていて、職場でのストレスが原因の大きな部分を占めていることが明らかであるにもかかわらず、労働災害として認定されることは事例の割りに少ない。

精神障害による労災請求は毎年100人ずつ増加しているものの、06年における請求件数は全国でわずか819件のみ、そのうち労災として認定されたのは205件（07年度は268人）に過ぎない。

「心理的負荷による精神障害等に係る業務上外の判断指針」（99年9月14日通達）によって、労災として認定されるハードルがきわめて高く設定されているためだ。

職場でのストレスが原因で精神的な疾患にかかったので労災として取り扱うよう求めても、労働基準監督署と使用者はグルになって認定請求それ自体を門前払いしているのが現実である。

所得保障のない非正規

正規労働者の場合には、たとえ労災として認定されなくても、療養のために休業する期間であれば健康保険の傷病手当が受給できるが、社会保険に加入できない非正規労働者に対しては、休業中の所得保障は何もない。

また、初診日から1年6カ月経っても症状が軽快しない場合には障害年金を裁定請求することになるが、「日常生活はできるが、労働することは困難である」というレベル（＝3級）の場合には、正規労働者（厚生・共済年金加入者）しか年金の支給対象とならない。

現実には、正規職として勤務していた労働者が、仕事のストレスのため発症し、退職することが多い。いったん退職した後は、メンタルヘルス不調を抱えての正規職への再就職は困難なため、不安定雇用の非正規職を転々とすることになる。

メンタルヘルス不調の頻発要因

教育労働者においては多忙と管理の厳しさが教育労働者を孤独と精神的過重に追い込みやすい。

福祉現場が資本による営利を目的とする領域化するなか、介護労働者も余裕のない作業に追われて、精神的にきつくなっている。

成果主義がはびこる職場には人間関係の破綻と強ストレス状態が蔓延している。「横並び」がいけないということは、他人を蹴落としてでも相対的に成績をあげなくてはならないということになる。

資本主義の社会は、労働者を労働力という1商品としてとりあつかうことによって成立する社会である。資本の下に労働者は個別に分断され、支配されている。賃金労働が賃金労働であるかぎり、労働者の疎外は止揚されることはない。自由競争・成果主義の嵐の中で、より一層労働者の疎外が進行している中で、経営側や行政による「相談窓口の設置」だとか「従業員の健康管理の徹底」などでは事態は決して改善しない。

しかし逆に言えば、「生産を労働者の手に奪還すること」を目指して闘うことができれば、事態は確実に改善できる。

「職場内で誰もあいさつすら交わさず、それぞれが黙々と業務に従事している」「誰がどんな業務をやっているのか、お互いにわからない」「それぞれの業務の責任体制がはっきりせず、担当者レベルですべてのことを背負ってしまう」などが、メンタルヘルス不全を発生させる職場の特徴であることが経験的に明らかになっている。

行政の「対策」は自己責任

厚生労働省は、増加するメンタルヘルス不全の問題に対し、06年3月に「労働者の心の健康の保持増進のための指針」を打ち出し、各企業に対してこの問題に取り組むよう行政指導を開始した。

しかし、それは「4つのケア」（「セルフケア」、「ラインによるケア」、「事業場内産業保健スタッフ等によるケア」及び「事業場外資源によるケア」）と呼ばれるものを軸にしたものであり、要するに「早期発見」「早期治療」を呼びかけるもの以上の何物でもない。

とくに、ここで言われる「セルフケア」とは、形を変えた「自己責任論」であり、また「ラインによるケア」というものも、管理的業務に従事する労働者に対する新たな労働強化であり、新たなストレスを別な形で再生産するものでしかない。

既成労働運動では闘えない

メンタルヘルス不全を発生させるのは資本の必然である。これを予防・克服するには労働者の階級としての主体的闘いが決定的である。

全労連や連合系ユニオン運動の一部には、メンタルヘルス問題に意識して取り組もうとする傾向はみられるものの、「労働者が職場で団結した力を基礎に闘う」という原則的な立場は常にあいまいにされ、労働災害としての認定を求める対行政交渉や、会社の安全配慮義務違反を追及する裁判闘争のみにこの闘いを切り縮めてしまう傾向が不断に発生している。一見、良心的・戦闘的に見えるが、労働者の階級としての形成を展望しない点においては右派御用組合とまったく同じである。

労組交流センターは闘う！

労働組合があればそこを基盤にして、もしなければたった一人でも、皆にあいさつの声をかけ、それぞれの業務内容と進行状況を聞きだし、職場の仲間同士の相談や情報交換のパイプ役となることが組合的団結の形成の基礎となることは、労組交流センターの仲間の実践から明らかである。

こうした闘いができるのは、階級的労働運動をめざす労組交流センターだからこそである。賃金労働の廃絶を根底から放棄し、「モノとり」主義で自己形成してきた既成の労働組合運動の潮流には絶対に闘えない。

年間自殺者3万人が、貧困や疾病、メンタルヘルス不全などのため資本に自殺という形で死に追いやられている、いや殺されているなか、メンタルヘルス不全に苦しむ労働者、闘う精神障害者と階級的に連帯して、「メンタルヘルス」の解決と労働者の未来を我々自身の力で切り拓こう！　ともに闘おう！

（海太）

ひめじょおん ―女性部から

関西合同労組を再建するぞ！

女性部副部長　西村美由紀
（関西合同労組執行委員）

「階級的労働運動で革命をやろう！」と闘いとられた女性部の第15回定期大会において、あらたに女性部副部長になりました。副部長としての力量はさておき、全国労組交流センターに結集する仲間とともに闘うことを表明します。その闘いの具体的実践はまず何よりも、関西合同労組を体制内労働運動に落とし込めようとする一部の連中を打倒・一掃し、革命をやる労働組合としてぶったてることにあります。私は99年、自分の解雇撤回を勝ち取るため、関合労に加盟し、団交や門前ビラまきを行い、解雇を撤回させました。その直後、会社側が私以外をUIゼンセンに加盟させ、孤立・分断をはかってきました。しかしそんな状況を突破するために、3波のストライキをやったり分会通信をまいたりして、職場に仲間をつくるため闘ってきました。しかし一人分会の壁はいまだ突破できず、試行錯誤の日々が続いていました。そして今日、ようやく勝利できる道が見えました。それが「労働運動で革命をやろう」「職場を革命の拠点にしよう」という路線です。本当にスッキリしました。関合労も「たたかう労働運動のあらたな潮流を！」を掲げ、動労千葉のように闘おうと組合を結成したと理解していました。体制内労働運動、腐敗したダラ幹というのは、連合や全労連などの既成の労働組合だと思っていました。しかし革命が現実に問われる時代になって、仲間と思って信頼していた連中が完全に体制内労働運動に転落した。関合労の旗を持って、今や体制内労働組合の太鼓持ちのようにすり寄っている。こんな裏切りは絶対に許せない。私達は、今春闘でも大幅賃上げを要求して団交をやってます。しかし賃上げ要求は、今の情勢では資本が一歩も譲れない・譲らない要求です。だからこそここにこだわっているのです。賃金が少し上がったり、労働条件が少し良くなっても、高給賃金奴隷にしかすぎないんです。労働者は自分たちの団結で革命やるしか生きられない、このことが青年労働者の叫びから始まり今ではすべての労働者の叫びとなっています。その声を間近で聞きながら、革命を嘲笑し、否定し、体制内労働運動に組合員を引きずりこむ一部の連中は打倒する以外にないではないですか。関合労執行委員会では、一部執行委員の口から「労働組合は体制内や。革命とかいうけどあんたも体制内や。会社の言うこと聞いて、就業規則どおり働いてるやんか」と発言。弁護団事務局に派遣した執行委員は当該の5・27闘争の被告団に解任されたにもかかわらず、「解任されてはいない。被告の7名が出て行ったんだ」とペテンを弄し、このまま事務局に居座り続けると開き直っている。でっち上げの「広島差別事件」説明会に参加し、委員長として発言する。組合員や組合書記が東大阪のセンターの反革命的占拠によって住む場を奪われたにもかかわらず「荷物があるなら取りに行ったらええやん」と抗議もしない。そしてコムサ闘争に対して「裁判しない闘争は関合労の闘い方ではない」とまで言うに至っている。昨年の11月集会の結集を呼びかけるため、法政大で宣伝活動していて不当逮捕され、アルバイトで働いていた「コムサイズム」というブランド店を展開する㈱ファイブフォックスは、それを理由に解雇してきました。当該の青年労働者は解雇撤回を要求して闘いに立ち上がりました。この闘いをコムサ闘争といいます。「この闘いをとおして労働者は団結して闘おう」と、職場の労働者のみならず、街頭に立って訴え続けています。「うちは裁判ではなく労働者の団結の力で勝つんや！」という青年労働者の声を封殺し「不当解雇撤回闘争で裁判をやらないなどという主張は、あまりにも子供じみています」と文書での説明を要求しています。6月22日は関合労の定期大会です。ここで体制内労働運動に決着をつけるべく、闘う決意です。そして11月労働者集会には「革命をやる労働組合・関西合同労組」として登場したいと思っています。

動労千葉労働学校で学ぼう！

4月19日に行なわれた労働者学習センター第8期労働学校基礎講座での受講生の感想を紹介する。この日の講義は「賃労働と資本」。

●私は高校生だった時、新興と言ってもいいだろう企業のチェーン店で、そこのアルバイトとして働いていました。そこは最近よくうたわれる「やる気を評価する」職場でした。私は初めてのバイトだったこともあり、頑張れば認めてもらえるというその職場で、やりがいや充実感といったようなものを感じて働きました。周りにいたバイトの仲間たちも同じように感じているように思っていました。その企業では能力に応じて昇給といったような制度（?）があり、1人の作業がきちんと出来れば見習いを抜け、人を気にかけるようになれば、さらに上へ、といったふうに昇格していけます。アルバイト達はもっと熟練したアルバイトになれるよう、上司に当たるアルバイトから指導を受けながら、限界の時間を計っては、もっと早く、もっと早くと尻を叩かれました。私が脱落したのは2年ほど経った頃でした。見習いから昇格し、さらに上へという段で、上司からは期待され、先に昇格したバイトと比較され、尻を叩かれ続け、責められ潰れました。時給たかだか900円の為に人を使うことを強いられ、たった数十円の為に日常まで浸食されていって、職場の外の人間関係さえも壊れ、私はその大好きでやりがいが有ったはずの店を辞めました。今、目立つ新興の会社は、やりがいやら人間としてのスキルアップをうたいながら、かつて私たちから搾りとったように多くの若者から、労働力のみならず、賃金の支払われない自由であるはずの時間や生活、人間関係までも奪いとっていきます。生きていくのにギリギリ以下の、1時間につき900円の賃金で、それをさも正当な対価であるような顔をして、アルバイト達の人生丸ごとむしり取っていきます。若者は認めてもらうのが嬉しくて、誉めて貰いたくて、限界を忘れて働き、自分をすり減らし、壊れ死んでいきます。資本家に殺されていきます。資本家の側は、言葉だけで無限に頑張ってくれる都合の良い道具だとほくそ笑み、潰れてしまえばまた別の労働者に取り替えるばかりで、まったく痛みを感じていないにもかかわらず、こんな一方的な関係は、主人と消耗品的な力関係は、絶対に正当なものではないし、これ以上野放しにしておくわけにはいきません。

　私たちは生き残るため、労働者本位の社会を手に入れるため、自分自身のために闘わなければなりません。労働者から搾取し、命をむしり取ることでのうのうと生きている資本家を許すことは出来ません。革命を起こしましょう。労働者の手に社会を返して貰うために。世界の主役としての座を取り戻すために。私たちはそれこそ奴隷ではないのですから。

●やはり良い仕事を求めるのは、資本主義では必要とされない。タクシーで考えると、お客を多く乗せて売上を上げれば会社は喜ぶ。しかし、労働者はそれだけ自分自身を傷つけ、安全運転をすることが出来ない。

　タクシーにとって良い仕事は、お客さんを安全に目的地に送ることが良い仕事です。出番日数を確保して働かないと、給料が落ちてしまい、生活できない。乗務員の中でも「自分は売上がいいから、賃金形態をかえてもらいたい。売上が低い人は自分の責任なんだ！」という労働者間の分断もある。資本主義は人間性をなくさせるものであり、やはり革命をやるしかないと思います。

労働学校講義案内

■基礎編
6月21日（土）　13：00～
◆労働者の生き方
◆講師　森尾　誠（社会問題研究家）

■実践編
5月31日（土）　13：30～
◆『俺たちは鉄路に生きる3』から学ぶ
◆講師　中田　一夫
（労働者学習センター）

会場　DC会館

空自イラク派遣「違憲」

自衛隊のイラク派遣は武力行使の放棄などを定めた憲法9条1項に違反するとして、全国の市民や元外交官ら約1100人が国に派遣差し止めや慰謝料などを求めた訴訟の控訴審判決で、名古屋高裁は17日、多国籍軍の武装兵士を輸送する航空自衛隊（空自）の活動について「憲法に違反する活動を含んでいる」として違憲の判断を示した。

「司法判断愚弄」と原告抗議

航空自衛隊のイラク空輸活動を違憲とした名古屋高裁判決を受け、防衛省の田母神（たもがみ）俊雄航空幕僚長が「『そんなの関係ねえ』という状況だ」と述べたことに対し、原告で「訴訟の会」の池住義憲代表らは19日「司法判断を愚弄して判決の価値をおとしめようとするもので、許されない」とした抗議文を防衛省に送った。

校長自殺は公務災害

茨城県常陸太田市の県立佐竹高校で必修科目の未履修が発覚した校長の高久裕一郎さん＝当時（56）＝が06年に自殺した問題で、地方公務員災害補償基金茨城県支部審査会が自殺を公務災害と認める裁決をだしていたことが21日、分かった。

滞納8000人、4億3887万円

都道府県立高校の授業料と入学金の滞納額は06年度だけで計約4億3887万円（一部累計も含む）に上り、滞納した生徒は延べ8048人だったことが19日、共同通信の全国調査で分かった。

国家公務員「心の病」急増

国家公務員の「心の病気」による病欠者が急増しているとの調査結果は9日、人事院が公表した。それによると、06年度中に病気やけがで1カ月以上休んだのは6105人。このうち、63％（3849人）の原因が「心の病」だった。年代別でみると、20代が前回の36％から81％、30代も38％から73％へと激増、若手の深刻ぶりを裏付けている。

「心の病」で休職6割の企業に

うつ病などメンタルヘルス（心の健康）で問題を抱え、1カ月以上休職している社員がいる企業の割合は62・7％と、3年前の前回調査より11・8％上昇したことが25日、民間調査機関の労務行政研究所の調査で分かった。

仕事でうつ病解雇無効

東芝深谷工場に勤務中にうつ病を発症し、休職期間満了後に解雇を通告された技術職の重光由美さん（41）が、東芝に解雇の無効などを求めた訴訟の判決で、東京地裁は22日、解雇の無効を認め、東芝に解雇後の未払い賃金など計約2800万円を支払うよう命じた。原告側代理人によると、業務に起因する精神疾患を理由に、解雇の無効を認めた初の司法判断という。

独立法人トップ原則公募

政府が今国会に提出する「独立行政法人（独法）通則法改正案」の概要が18日明らかになった。独法トップの「理事長」や監査役に当たる「監事」のポストを原則公募にするほか、独法が所有する資産の売却代金を国庫に全額返納させることが柱で25日に閣議決定する。

介護中の転勤無効確定

大手食品メーカー「ネスレ日本」の男性従業員2人が「家族の介護ができなくなる」として遠隔地への転勤命令の無効確認などを求めた訴訟の上告審で、最高裁第2小法廷（津野修裁判長）は18日、ネスレ側の上告を棄却する決定をした。

国の借金849兆2000億円

財務省は9日、07年度末の国債や借入金などを合わせた国の借金（債務）の残高は前年度より14兆8610億円（1・78％）増えて、849兆2396億円に達したと発表した。

国の財政「夕張以下」

財務省は18日の財政制度等審議会（財務省の諮問機関）の部会で、地方自治体の財政健全度を示す「実質公債費比率」を国の財政に当てはめると80・4％となり、財政破綻した北海道夕張市の38・1％を大きく上回るとの試算を公表した。

雇用保険、国庫負担を廃止

財務省は8日、雇用保険制度の財源の一定割合をまかなっている国庫負担を09年度から廃止する検討に入った。社会保障費の伸びを毎年2200億円圧縮する政府計画に組み入れる狙いだ。

ガソリン税率復活

1日からガソリン税の暫定税率（1リットルあたり25・1円）が1カ月ぶりに復活。自民、公明両党が30日の衆院本会議で、税制改正関連法を3分の2以上の賛成多数で再可決、成立させたためだ。1日から全国平均で1リットルあたり30円アップする。

夏まで春闘

大手企業の労働組合が「昨年並み」の賃上げ回答を得た今春闘。しかしメーデーのこの時期になっても、中小企業の多くの労組はまだ労使交渉中だ。好調な業績を背景に大手との格差是正を掲げたものの、交渉が長引くにつれ、原油高や円高などの影響で昨年よりも状況が悪くなっている。

サブプライム関連損失1・5兆円

国内金融機関は08年3月期に米国の信用力の低い個人向け住宅融資（サブプライムローン）問題に関連して、合計1兆5千億円を越す損失を計上する見通しだ。

石油メジャー4社純利益3兆円超

米欧石油メジャーの業績が急拡大している。米エクソンモービルが1日に発表した1～3月期決算の純利益が前年同期比17％増の108億ドル（約1兆1200億円）だった。同日までに発表されたメジャー4社の同期の純利益を合計すると3兆円を突破。

労働力人口2429万人減

政府は22日午前の閣議で「2008年版少子化社会白書」を決定した。少子高齢化に有効な手を打たなければ、15歳以上の就業可能な「労働力人口」は06年の6657万人から50年には2429万人減で、3分の2弱に当たる4228万人まで落ち込み「経済成長にマイナスの影響を及ぼす」との警鐘を鳴らした。

人口の集中加速

総務省が15日発表した07年10月1日時点の都道府県別の推計人口調査によると、最多の東京が前年同期比0・78％増の1275万8千人となり、総人口に占める割合は79年以来、28年ぶりに10・0％となった。

消費者物価1・2％上昇

総務省が発表した3月の全国消費者物価指数（05年＝100、生鮮食品は除く）は100・8で、前年同月比で1・2％上昇し、6カ月連続のプラスだった。上昇幅は2月を0・2ポイント上回り、93年8月に並ぶ14年7カ月ぶりの高水準だ。

フリーターを11万人減

政府が成長政策の柱として検討している「新雇用戦略案」の全容が21日、判明した。2010年までにフリーターの数を現在より11万人減らし170万人とする数値目標を設け、若者の就職や職業訓練を支援する。

日航、給与5％カット

経営再建中の日本航空は14日、中核小会社の日本航空インターナショナルの従業員約1万7千人について、新たな基本給と諸手当を一律5％カットする方針を明らかにした。人件費削減効果は年間100億円の見込み、10月の実施を目指し労働組合側と交渉に入った。

石綿被害建設労働者ら178人が提訴

建設現場でアスベスト（石綿）を吸い込み、肺ガンなどの健康被害を受けたのは、行政などが危険性を認識しながら対策を怠ったのが原因として、東京と千葉、埼玉の建設労働者と遺族ら178人が16日、国と建材メーカーに総額約66億2千万円の損害賠償を求める訴訟を東京地裁に起こした。

福田内閣支持19％に

共同通信社が1、2の両日に実施した緊急電話世論調査で、福田内閣の支持率は19・8％と、4月の前回調査から6・8％急落し発足以来最低を更新した。不支持率は66・6％で7・0ポイント増。

インフレ大波アジア襲う

中国国家統計局が12日発表した4月の消費者物価指数（CPI）上昇率は、前年同月比8・5％と、再び加速した。インドやベトナムなどの他のアジア諸国でも物価上昇は深刻化しており、各国政府の対策には手詰まり感も出ている。

パイオニア2000人削減

パイオニアは12日、販売不振が続くプラズマテレビ事業の再建策の一環として、08年度中に国内外で2千人規模の人員削減を実施する方針を固めた。

男女の賃金格差に国際機関「待った」

日本の男女の賃金格差は問題として、是正を促す報告が国際機関から相次いでいる。先月、国際労働機関（ILO）が日本政府に法改正を求め、経済協力開発機構（OECD）も今月、女性が多い非正社員と正社員の問題を指摘。

第２次国鉄決戦の突撃路開く
弁護団解任・松崎との分離勝ちとり階級裁判を開始

国労５・27臨大闘争裁判を傍聴して

全員が「すがすがしい気持ち」

国労５・27臨大闘争弾圧の第87回公判が、５月23日に東京地裁刑事10部で行われた。公判は昨年12月に裁判長らの異例の交代で中断して以来、５カ月ぶりである。その間に富田益行被告団長ら７被告は、弁護団全員の解任と松崎被告との裁判分離を勝ちとり、階級的原則を再確立した。全員が異口同音に「すがすがしい気持ち」、「暗雲が晴れた」と自信に満ちた気持ちを表明し、裁判での更新意見や報告集会を牽引した。

７被告は労働者自己解放の思想、裁判闘争の主体は被告であるという原則、国鉄決戦勝利・国労本部打倒の路線を守り抜き、あらゆる敵対・妨害を全て跳ね返した、やりきったという自信に満ちていた。被告や弁護団という「身近な」存在からの熾烈な妨害・敵対を跳ね返すという苦闘をやりきったことが、遂に実を結んだ瞬間だ。自信持ったことで、闘いの展望は、かつてなく大きく切り開かれた。ＪＲ体制を打倒する第二次国鉄決戦の突撃路が開かれ、躍進が始まったのだ。

富田団長、「旧弁護団の解任、松崎との分離は当然」と

新しく植村稔裁判長となり、左陪席も東尾和幸裁判官に交代した。検察官は藤本治彦ら３名が掲示されたが、すべて東京地検「機動班」。裁判所、検察共に新体制との闘いが始まった。

新弁護団は、葉山岳夫弁護団長、鈴木達夫主任弁護人、西村正治・松田生朗・山本志都各弁護人（藤田正人弁護人は欠席）の６名。

冒頭の手続きの後、鈴木主任が３期日の更新手続きの全体計画を明らかにした。この日は、富田益行・東元・小泉伸の３被告人が意見を述べ、「杉並ビデオ」再生の後で、鈴木主任弁護人と葉山弁護団長が更新意見を朗読した。今回は、富田被告団長の約50分間の陳述のうち、「旧弁護団の解任と松崎との分離は当然」と述べた要旨を紹介する。

富田さんは冒頭で、「私たちは、弁護人全員を解任し、松崎被告人との弁論分離をかちとった」と宣言した。そして、「私たちは、被告団の団結を守り、国鉄闘争の勝利をめざして、この裁判闘争を階級的原則に基づいて闘いぬくために、自らの決断をもって旧弁護団を解任したのです」「被告人の意思を踏みにじる弁護人、特に一瀬

弁護士は解任されて当然です」と言い切った。

続いて富田さんは、松崎を徹底的に弾劾した。松崎は「『自分は革共同を辞めた転向者です。』と権力に命乞い」をするとともに、本件5・27弾圧について「『本部執行部が政治権力に利用され、労働者を権力に売ることを強制された』と国労本部を全面的に免罪」したこと、「解雇撤回を投げ捨てた4者・4団体とその路線に対して全く批判せず賛美」していることを弾劾し、「裁判闘争で根本から対立する松崎とは共同被告人として裁判を進めていくことはできない」、「私たちを権力に売り渡す行為を続ける松崎被告人を弁護する旧弁護団が、松崎弁護団として私たちと法廷をともにすることは認められない」と述べた。これが弁護団解任と、松崎との分離の核心である。全く正当であり、被告としての最低限の権利行使なのだ。

今や松崎とその弁護団は、7被告と新弁護団への悪罵と妨害を強めている。しかし、寄って立つ松崎の生き様＝路線は何なのだ。06年に解雇撤回を訴える物資販売を、羽廣さんの反対を押し切って中止した。松崎はこの時、農民切り捨ての行政の先兵となり、田んぼを拡大し「特定農業従事者」として表彰されていることが判明した。ここから始まる松崎の転落・裏切りは急速であり、底知れない。松崎とその弁護団に正義が有るはずがない。

7被告支持の声を、全国で上げよう。

尼崎事故弾劾の全国闘争の地平で

7被告全員は、4・26尼崎事故弾劾の全国集会と現場へのデモを動労千葉と共に打ち抜いた地平をひっさげて登場している。尼崎事故発生の直後から、関西の被告を軸に、「これだけは許せない」、「権力と闘えない体制内指導部では、事故弾劾も言えなくなる」、「遺族の怒りと向き合うには、資本と非妥協で闘う以外にない」という怒りと危機感に燃え、独自にJRの現場から闘いを起こしてきた。全被告と国労の仲間20数名が演壇に登り、富田被告団長が基調を提起し、羽廣、原田被告が渾身の訴えを行った。（集会報告のDVD完成。当方でも扱います）

動労千葉の反合理化・運転保安路線に学び、「事故原因は魔の急カーブだ」という「保線屋」ならではの告発・弾劾を地元の分会を巻き込んで闘ってきた。春闘ストを打ち抜き、平成採獲得のスト態勢を堅持しつつ、動労千葉が呼びかけを発した。関西の地元の労働組合に大きな衝撃を与えた。国労の仲間は、JR東の羽越線事故、JR西の伯備線事故弾劾を地元で闘い、持ち寄って全国から結集した。

107名を殺した尼崎事故は、新自由主義攻撃の最先端である国鉄分割・民営化が原因である。安全破壊・規制緩和は全社会を覆い、民営化路線粉砕＝労働者権力の樹立こそが求められている。民営化路線の最大の弱点を突く闘いが、国鉄で大きく前進したのだ。

JR体制での矛盾は、平成採の青年労働者に集中している。尼崎事故でも真っ先に死亡し羽越線事故では、責任の全てを不当にも負わされたのは青年労働者だ。JR東の「ライフ・サイクル深度化」も、40才以下の運転士を「何でも屋」にする攻撃だ。この青年たちの怒りと結びつく職場での闘いこそ最大の課題だ。裁判は、第二次国鉄決戦そのものとして、職場闘争と一体で展開される。いよいよ、階級裁判の中身が姿を見せるのだ。

本部打倒の全国キャラバンへ

7被告は「尼崎集会は全国キャラバンの出陣式」、「俺たちが国労本部を打倒する」と全国に呼びかけた。23日の裁判後の集会では、多くの要請が集中した。すでに6～7月でも、国鉄集会、7被告の声を聞く「許さない会」集会などが10カ所を超えている。羽廣さんは、物資販売で全国を回っている。

被告団は、単に行って話しをするだけでなく、ビラまきやオルグ、交流会など全てをやる決意だ。国鉄闘争情勢は、国労本部主導の「4者4団体」路線のもとで1047名闘争の主体の危機が激しく進んでいる。本部打倒を貫き、職場からの闘いで平成採を獲得する道に勝利がある。共にこの道を進もう。

だんけつ

No. 32（2008年5月28日）

だんけつ編集委員会
集配分会・高橋恒男
星野勝紀・井上 徹

シュミレーションの中止と欠員補充が職場の総意だ！

4月9日、「配達シュミレーション」の職場周知で課長は胸を張って次のように宣言しました。「この新しい作業パターンを使えば配達は時間内で終わる！ 超勤の必要はない！」。

しかし、職場の私たちは誰一人として課長の言葉を信じませんでした。一度でも配達したことがある人間ならば「この配達シュミレーションは完全に破綻（はたん）する」と分かるからです。配達を一度もやったことがない人間が、電卓を片手に作った机上の空論だということが分かるからです。全ての班で反対の声が上げられているのは当然のことです。「配達実態を無視したシュミレーションが入れられたら、配達はメチャクチャになる！」「配達先から反発をくらうことが明らかなのに、なぜ当局は強行するのか！ そういえば最近『お客様第一』って言わなくなったな」「当局の狙いは明らか。本務者は班長だけでいい。後は非常勤におきかえて局を低賃金と無権利の職場にしようとしている」「劣悪な労働条件にして50才以上の組合員を追い出そうというのか」。

予想どおりの業務破綻（はたん）

A班 9時の配達が11時からに12時に。配達先からは、「銀座に移ったから2時間も遅れるのか？

仕事が始まらない、今までどおりに配達しなさい！」という苦情の嵐。課長はというと「苦情が来た会社だけ9時に配達しなさい」というトンチンカンな業務指示。班員は「1社だけじゃないんだよ。次から次へと苦情が来ている。全部から来たらどうするの？ 元の配達線表に戻すしかないんだよ」。

B班 配達シュミレーションどおりにやったら午後2時にやっと帰局。食堂は閉まっていて昼食はとれず。課長は「班の工夫が足りないからだ！」との回答。班員は「シュミレーションを変えてはならないと言っていたのは課長でしょうが！」。

C班 欠員の多い班で、配達が完全にパンクして、残った物は次の日まわし。切れた課長は「区分のスピードが遅いからだ！」と、班員に八つ当たり。班員からは「4人の欠員を放置して、勝手なことを言うな！ あなたが配達に出ればいいんだ！」と猛反発。

元の線表にもどすこと！

当局は次から次へと寄せられる配達先からの苦情に対し「配達員が慣れるまでしばらく遅れます」と答えているようですが、それは明らかに違う。5月は平均的な物数の月であって、その5月でさえ、私たちの職場は超勤地獄にたたきこまれているのです。7月の中元小包の繁忙はどうするんだ！　年末の小包繁忙はどうするんだ！　そもそも「配達シュミレーション」には、物が多くなった時の対応策が何一つ書かれていないのです。

土日の乗客数を基準にして列車のダイヤ数を決定し、平日のラッシュに乗客をさばききれずに運行不可能となる鉄道会社、まさかこんな鉄道会社はないはずだが、そのないはずの業務運行をやってしまっているのが郵便局当局です。こんなデタラメな業務運行をやっていたら、必ずや重大な事故が起きる！

その時に、犠牲となるのは、当事者とさせられるのは、俺たち労働者だ！　冗談じゃない！

解決は一つしかありません。配達シュミレーションを中止して、元の線表にもどすことです。欠員を直ちに補充することです。

フランスで年金制度改悪反対に70万人のデモ、郵便労働者が決起！

5月22日、フランス全土でサルコジ大統領―フィヨン内閣の年金制度改革（満額受給までの年金保険料納付期間を2009年から2012年の間に40年から41年に延長する）に反対して労働組合が一斉にデモを行いました。パリ7万人、マルセイユ6万人、グルノーブル3万人、ボルドー、トゥールーズ、ナントが2万5千人、仏全土で70万人の労働者が決起しました。

デモには公務員も民間労働者も参加しました。教育改革、公務員削減（教員が半分）に反対する教育労働者や高校生、郵便労働者、鉄道労働者、労働許可証を持たない外国人労働者（サンパピエ）、港湾民営化に反対する港湾労働者、工場の外国移転に反対するＥＡＤＡ（エアバス）の労働者の姿が見られました。

他方、国鉄の８組合、パリ交通公団の３組合は21日午後８時から24時間ストに入り、３分の２から半数の電車、地下鉄、ＴＧＶ（新幹線）を止めました。

●5・23狭山闘争に参加して

東京　小林茂樹

今までの心の底のよどみが洗い流されたような集会だった。これまでも部落差別は許せないし、労働者こそが闘わなければならないと思って全国連大会やいろいろな集会に参加してきました。だけど、そこには糾弾主義の背中合わせの思いがあったと思います。部落民から言われたら―具体的には全国連本部であったり同志会の人であったりするわけですが、何も言わない言えない自分があったのです。

田中委員長の「資本との激闘なしに狭山闘争の発展はない」という提起こそ労働者が解放運動を闘う原点だし、部落の労働者との団結を取り戻す唯一の道です、これから生き生きと闘っていきます。

●石川啄木と宮沢賢治について

東京　和田信二

貧乏だったころ

私が高校3年生の夏休み、登校日にバイクで事故を起こしました。免許はあるがバイクがない貧乏人、かたやバイクはあるが免許がない金持ちの同級生。彼を乗せて登校し、帰りに「餃子を食いに行こう」と彼。私は餃子というものがどういうものかしりませんでした。私の家での食生活は明治生まれのおふくろで飯とおかず一品でした。「今晩のおかずは」と聞くと「おみおつけ」と聞くと具が3つは入っているのでうれしかった。高校時代の弁当も弁当箱にたらこが1個ころりんとあるだけです。（こういうとおかずがあるだけましと言われましたが）まわりを見渡すといっぱいおかずがあるカラフルな弁当です。同級生のなかに同じように1品弁当をもっているのがいて、教室で食べるのは恥ずかしいので校庭で食べる習慣になりました。真冬でも校庭で食べていました。悲惨なふたりだけではと思われますが、体育会系の連中がいて結構楽しい昼食でした。

そして生まれて初めて中華料理店に行って餃子を食べました。こういう食べ物も世の中にあるのだと思いました。その後悲劇が起こります。土曜日の午後でした、中華料理店を出て、バイクを止めて右折しようとしていたとき雨が降り出しあわてている運輸トラックにぶつけられました。頭を押さえたのですが空洞がある。骨がない。骨の下は脳、やばいと思いました。救急車が遅いのでタクシーに乗せられて救急病院に行きました。そこで初めて食べた餃子を胃の洗浄ではかされました。口からチューブを入れて大量の水を流し込むのです。苦しいゲーゲー。

臨死体験

その後、親父が来て医者としゃべります。私の頭をみて親父も顔色を変えました。医者は「こういう状態ですから、もし直ったとしても自動車の塗料が入っていますし、後遺症は避けられない」とほとんど死の宣告を本人の前でしゃべります。私としては全然痛みもなく音声がはっきり聞こえます。ここではっきりわかりました。死の直前は痛みがないのです。痛みを感じられるのは生きている証なのです。もう私には痛みはありません。

当時、脳神経外科はほとんどなくて、手術できなくて放置され、死亡するのがあたりまえでした。ところがこの救急病院の土曜日の当直医師は県立医大の脳神経外科医だったのです。幸運にも手術され全身麻酔と1万ＣＣというとんでもない輸血のもとで痛みがよみがえったのです。その後院長から頭のレントゲン写真を見せられました。ぽっかり空いた頭蓋骨、そこで私は言いました「骨折はなおるのだから、徐々に骨が出てきて元に戻るのですよね」、院長は言いました「それはありません」、「えー」と私。結局、退院後1年たって強化プラスチックを入れることになりました。

良かったこと

3カ月の闘病生活、1カ月はベッドに寝たきりでした。トイレも全部ベッドの上でした。この闘病生活の時、石川啄木と宮沢賢治を読んだのです。中央公論から「日本の詩歌」という全集がでてロマンがありました。それと誰も知らない遠い親戚という人が「なし」と「人間革命」をもってやってきました。「単車の高校生重体」という記事がローカル紙に載りました。恐るべき創価学会、もう40年

も前のことです。「人間革命」についていうと創価学会の前身創価教育学会をつくった創始者牧口常三郎や戸田城聖はまだまともと思いました。池田大作になると最悪です。自民党とつるみ、池田大作は世界で金をばらまき名誉を買おうとしています。ブルジョア社会の矛盾を別の方向に向ける最悪の宗教団体に転落しています。

宮沢賢治と石川啄木について

さて本題です。石川啄木ですが天才です。だけどテロリスト（思想的に）です。

ココアのひと匙

われは知る、テロリストの
かなしき心を
言葉とおこなひを分かちがたき
ただひとつの心を、
奪われたる言葉のかわりに
おこないをもて語らむとする心を
…

ちなみに印象にのこっている釧路での歌の一句で「辻」の中にあります。

四つの辻。―四つの角なる
家は皆いと厳（いか）めしし
銀行と、物売る店と、
新聞社。残る一つは、
人の罪嗅ぎて行くなる
黒犬を飼へる警察

それに比べて宮沢賢治は教師から農民の苦しみを何とかしたいと「羅須地人協会」を設立して、東北の冷害「やませ」と闘います。そして品種改良とかいろいろこころみますが敗北します。

教科書に載ったのは「永訣の朝」けふのうちに
とほくへいってしまうわたくしの
いもおとよ
みぞれがふっておもてはへんにあかるいのだ
（あめゆじゅとてちてけんじゃ）

私の好きなのは「もうはたらくな」

もうはたらくな
レーキを投げろ
この半月の曇天と
今朝のはげしい雷雨のために
おれが肥料を設計し
責任のあるみんなの稲が
次から次と倒れたのだ
稲が次々倒れたのだ
…

「レーキをなげろ」…とか「雨にも負けず…」とか必死こいてやってきたことが自然の前に敗北する。しかし彼はそれと向き合って闘います。この辺に私は感動しました。

なにを言いたいのかというと私たちは宮沢賢治のように闘うことが求められ、それが今の青年労働者によって開始されているのです。強大な権力、帝国主義を相手に立ち向かい革命をやろうとしています。敗北することは最後の時まで続きます。そこで挫折をしない。私たちには革命的団結があります。「全世界の労働者と団結する」―こんな「ロマン」がどこにあるでしょうか。

この交通事故以来、石川啄木とか宮沢賢治を読んでいませんが。

読者のページに投稿を！

世界が動き、私たちのなかも動いています。これに感動するか、絶望するかどちらでも結構です。

ぜひ投稿をお願いします。

Photo Document

2008年4月～2008年5月

新たな入管闘争始まる！

5・11　神奈川

全国実行委員会主催の「第19回外登法・入管法と民族差別を撃つ全国研究交流集会」が横浜市教育会館ホールで、580名を結集して開催された。4・20関西集会に続き新たな入管闘争がスタートした。

辺野古移設阻止・基地撤去！

5・18　沖縄

72年ペテン的「返還」から36年、9・29－3・23県民大会の地平を発展させる「5・15平和とくらしを守る県民大会」が、宜野湾海浜公園野外劇場で開かれ、日教組、自治労、私鉄など労組員4千人を結集した。

新たな部落解放闘争の出発誓う！

5・23　東京

石川さん不当逮捕から45年、部落解放東日本共闘会議主催の「5・23狭山集会」が文京区民センターに185名を結集して開催された。労働者階級こそ部落解放の先頭に立ち、狭山・西郡闘争を全力で闘うと誓い合った。

月刊 交流センター　2008年6月号　No.219　定価300円（本体価格285円）

全国労働組合交流センター　東京都台東区元浅草2-4-10　五宝堂・伊藤ビル5F　URL:http://www.k-center.org
TEL 03-3845-7461　FAX 03-3845-7463　郵便振替口座／00150-9-408647　E-mail:centergo@nifty.com

発行人／中野　洋　入江史郎　　編集人／井上　長治